



MINATO

みなとユネスコ 会報

Bulletin

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY / MINATO UNESCO ASSN. 16-3, SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004 / HIROSHI NAGANO PRES.
発行所 / 港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 Tel: 03-3434-2300 Fax: 03-3434-2233 発行人 / 田部葵一郎
Mail: m-info@minatounesco.jp https://minato-unesco.jp

2023年3月1日発行 第171号

目次

P. 1 巻頭言	P. 6 東京の森川海を知る
P. 2-3 第六回日本語スピーチコンテスト	P. 7 MUA「新年のつどい」
P. 4 第78回日本ユネスコ運動全国大会	P. 8-11 ウクライナの文化/友金守さんを偲んで
P. 5 三田高校ユネスコ委員会の来訪	P. 12 新入会員歓迎ミーティング/事務局だより

日本語教師のつぶやき

港ユネスコ協会 常任理事 田川純子



私は本当に運が良い。これはきっと天の誰かがいつも私を見守ってくれているおかげであると確信している。日本語を学びたい人に分かり易く教えるのが自分の使命と考えている私であるが、ありがたいことに定年退職後も日本語教師を続けられている。そこで、日本語教師のレッスンの様子をいくつか紹介したい。

(1) そう、1月1日だと言うのに、今日はオンラインレッスンがある。生徒がいるベルギーとの時差は8時間なので、日本の午後2時はベルギーの朝6時。日本通の生徒さんは流石に元旦でもレッスンがあるのか不安だったらしく、確認を求めるメールをよこした。しかし、レッスン開始の時間、午後2時になってもズームに入ってくれない。珍しい！ 大抵2分前ぐらいには入ってくる人なのに。この前のようにネットが繋がりにくいトラブル発生かと思ったり、あちらは朝なので、もしかしたら起きていないのではとも思った。そうこうしているうちに午後2時14分となり、ようやくズームに入ってきた。謝るばかりで理由を言わないところを見ると、寝過ぎしかないとチラッと思った。EUの偉い人でもそんなことがあるのだろうか？ いずれにせよ、1月1日からレッスンを開始できるとは何とめでたいことか！！

(2) 今日のレッスン目標は病気や怪我をした時の表現を習得することである。生徒さんの中には何人か医師がいるので、「患者さんが来たら なんと言いますか」と尋ねる。私としては「What happened? (どうしたんですか)」を期待していたのだが、このお医者さんは「YOU, AGAIN!!」(また、あんたかあ！)と言う。これには 笑ってしまった。もちろんこれはこの医師のジョークであり、ここでの学習目標は「動詞の普通型+んです」の勉強なのである。

(3) 今日も寒い。特に横須賀は海のそばなので尚更だ。米国の軍人さんを相手のレッスンは面白い。大きな図体をしていながら子供のような質問をする。コンビニで店員さんが言う「袋(ふくろ)ご利用ですか？」について、『ふくろ』と『Ow1』の梟(ふくろう)はどう区別するのですか？とか、『北海道』と『ホッカイロ』の違いは？とかいった具合だ。

レッスン場所へは早めに着くようにしている。気持ちを集中させ、今日のレッスン内容はこれでいいのかとザッとノートを見直す。今日は形容詞。使用テキストは米政府から指定されたテキスト
(P. 10へ続く)

第6回 日本語スピーチコンテスト

日時：2022年12月11日(日) 13:30～16:00

会場：港区立男女平等参画センター「リーブラ」ホール

今回のコンテストには 港区長 武井雅昭様及び、港区教育委員会教育長浦田幹男様のご出席をいただき、11名のコンテスト出場者と沢山の見学者を迎え、下記の式次第に沿って執り行われました。



田部会長



武井区長と田川MC

- | | |
|-------------|-----------------|
| 1. 開会宣言 | 司会 田川純子 |
| 2. ご挨拶 | 港ユネスコ協会 田部揆一郎会長 |
| 3. 来賓ご挨拶 | 港区長 武井雅昭様 |
| 4. スケジュール紹介 | |
| 5. 審査員紹介 | |

第一部 スピーチ

下記11名の出場者がそれぞれのテーマでスピーチを行いました。

- | | | |
|------------------------------------|-----------|-------------------|
| ① ガネッシュ・ミテュラン | (インド) | 「インドの教育制度」 |
| ② Hla Yamin 00 | (ミャンマー) | 「自立」 |
| ③ 李俊熹 | (中国) | 「万巻の書を読み、万里の路を行く」 |
| ④ ギュリ・キム | (韓国) | 「私の日本、皆の日本」 |
| ⑤ Dhea Ceicarya Ferennita Langitan | (インドネシア) | 「成功」 |
| ⑥ 杜建奥 | (中国) | 「日本文化の輸出」 |
| ⑦ Bhatt Suresh | (ネパール) | 「わたしと日本」 |
| ⑧ イムロン・アブドラモノフ | (ウズベキスタン) | 「ふるさとと海から考えること」 |
| ⑨ 趙麗君 | (中国) | 「感謝」 |
| ⑩ Dineshkumar Prabakaran | (インド) | 「静かな国 日本」 |
| ⑪ Oblokulov Ravshan Sobirjon Ugli | (ウズベキスタン) | 「あこがれの国」 |

第二部 会場見学者と出場者との交流会

担当：小林 亮 玉川大学教授

ファシリテーター：玉川大学ユネスコクラブ学生

小林教授の指導の下、見学者は小グループに分かれ、それぞれ出場者を囲みながら「日本での苦労話やエピソード、日本への思いなど」について自由なトークを行いました。



第三部 審査結果発表と授与式

審査委員長の東京インターナショナルスクール理事長 坪谷郁子様より各賞が発表されました。

最優秀賞	Bhatt Suresh
港ユネスコ協会会長賞	Oblokulov Ravshan Sobirjon Ugli
港区長賞	Dineshkumar Prabakaran
港区教育長賞	趙麗君
審査員賞	李俊憲
優秀賞	イムロン・アブドラモノフ
優秀賞	ギュリ・キム
優秀賞	杜建奥
優秀賞	Hla Yamin 00
優秀賞	Dhea Ceicarya Ferennita Langitan
優秀賞	ガネッシュ・ミテュラン
会場特別賞	Bhatt Suresh

受賞者には それぞれ賞状とカップ若しくは盾が授与されました。また、会場の見学者の投票による「会場特別賞」受賞者には賞状と輪島塗のお箸が授与されました。

コンテストを終えて

今年は港区長の武井雅昭様と港区教育委員会教育長の浦田幹男様のご出席をいただき、今までにない盛大なコンテストを執り行うことができました。出場者は日本語学校の生徒さんをはじめ、港ユネスコのスピーチコンテストを聞きつけたいろいろな方々に参加してもらうことができました。



そして、どの出場者も「よくぞここまで日本語を習得してくれた!!」と感心させられるレベルで、そのスピーチ内容も人の心を動かすものでした。出場者の皆様、見学者の皆様、そして陰で支えてくださったスタッフの皆様、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。



(日本語スピーチコンテスト委員会 担当常任理事・委員長 田川純子)

第 78 回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津

～ オーガニックシティ木更津からの発信 ～

日時：2022 年 11 月 26 日（土）12 時 20 分～

会場：かずさアカデミアホール（木更津）

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟と千葉県ユネスコ連絡協議会の主催の下で全国各地のユネスコ協会、クラブの会員が集まり学ぶイベントが対面では 3 年ぶりで開催されました。港ユネスコ協会からは金城恒夫さん、佐藤律子さん、平山耀子さん、小林敬幸が参加、総勢約 280 人、そして一般参加者なども含めて約 420 名と大勢の参加がありました。

記念講演の宇梶剛士さん（俳優）は、自身の人権、差別の体験談からの「明日に向かって生きる」を語られ、パネルディスカッションでは「誰一人取り残さない平和で持続可能な未来を目指して」と題し、農業、水産業、都心近接の環境を生かしつつ「オーガニックシティ木更津」を標榜した市政 80



年の歴史をテーマに討論されました。特に自然環境を生かした「子育て」の話は持続可能な未来を作り上げる原点として捉えられていると、強く感じました。

最後の挨拶で東京都ユネスコ連絡協議会会長の池田敬介さんとメンバー 30 人強が壇上に上がり来秋の 9/3（日）青山学院大学にて開催の「都ユ連・関東ブロック大会」の予告案内をしました。また、9/9（土）には全国大会が富士山を望みながら山梨県富士吉田市にて開催の案内もあり次年度への再会を期して閉会となりました。その後の希望者による懇親会も久々の開催となり旧交を温める会となりました。



（副会長 小林 敬幸）

東京都立三田高等学校ユネスコ委員会来訪 ーユネスコ活動および戦争と平和について考えるー

日時：2022 年 12 月 14 日 13：45～

場所：港区生涯学習センター205 号室

恒例になっております三田高等学校ユネスコ委員会の生徒さんによる当協会訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりに実現することができました。今回が9回目の開催となります。当日は総勢21名の生徒さんたちが大野豊司先生に引率されて来訪してくださいました。最初に事務局より、当協会の活動内容などについて具体例を挙げて紹介しました。

続いて、田部会長が講師として、ご自身の戦争体験を中心としたお話しをされました。

父親の満州への転勤に伴い、魚雷が航行している危険な日本海を3艘の船で渡ることになったが、ご自身の乗っておられた船のみが中国大陸に無事到着できたこと。原爆が投下された中心地に祖父母の家がありそこに疎開していたが、満州と一緒に移動していたことにより生き延びることができたこと。戦後、当時住んでいた満州の街にロシア兵がどんどん入ってきて、日本人の三人に一人をシベリアに差し出すよう強要されくじ引きになったが、父親がくじに当たらずシベリア行きを逃れることができたこと。帰国後の電気もないガスもない原始的と言っていいほどの生活。日本はそこから少しずつ復興していき、経済大国になるなど現在に至っていること。

そして、「これからの日本」として、日本は平和な国と思っているが、ロシアのウクライナ侵攻や中国の台湾進攻など覇権主義的な動き、北朝鮮の軍事開発と挑発行為と、隣接する国々をみると、実は危険に満ち溢れていること。皆さん若い方々が日本の未来をどうしていくのかを考えていただくことが大事であるという問題提起をしていただき、講話を終了しました。

最後に、ユース委員会を代表して古市常任理事から「高校生の皆さんと一緒に、私も経験していない戦争体験の話しを聞くことができ、このような違う世代間の交流を持つことの重要性を改めて認識させられた。」などのコメントをいただくとともに、今後の当協会のユネスコシップなどのイベントへの参加による交流、協力を呼び掛けていただきました。

(事務局 新福彰二)



クルーズ船とバスで東京探訪！「東京の森川海を知る」

日時：2023年1月21日(土) 9時30分～19時00分（9時00分受付開始）
場所：日の出桟橋集合、東京海洋大学正門前にて解散

港ユネスコ協会では、港区教育委員会と東京海洋大学水圏環境教育研究室の共催により「東京の森川海を知る」を実施しました。4回目となった今回は、多くの応募を頂いた中から区内の小・中・高校生や社会人、東京海洋大学の学生など約60名が参加しました。午前中は東京湾の運河と隅田川をクルーズし、午後は羽山取水堰と狭山湖をバスで巡り、東京の森・川・海とそのつながりについて考えました。

この日は少し風があるものの天気には恵まれ、日の出桟橋を9時30分に出発した船は、大井ふ頭、台場、東雲運河、豊洲運河、隅田川から築地を巡って再び日の出桟橋へと戻りました。船内では東京海洋大学の学生の方からの発表があり、参加者はグループに分かれてモデレーターとして加わった学生の皆さんとともにグループディスカッションを行いました。

また船上バードウォッチングや東京湾でのプランクトン採取も実施しました。「レインボーブリッジはなぜ高い？」「なぜ台場ができた？」「なぜ築地市場の移転先に豊洲が選ばれた？」「築地に多くの学校があったのはなぜ？」など、身近な場所やその歴史に関する質問が投げかけられ、海や海と人との関わりについて活発な議論が行われました。

午後は、港区の古川橋を通過して一路バスで羽村取水堰へと向かい、取水堰周辺をバスから見学した後は狭山湖周辺を徒歩で散策しました。1653年に完成した羽村取水堰は江戸時代の人口増加を背景に玉川上水と同時に建設され、東京の人々の生活を支えてきました。

道中の車内では、「最初に取り水口を作ろうとした場所は」「なぜ失敗したのか」「建設費用」「玉川上水の100メートル間の高低差」など、玉川上水に関連するクイズが出され、東京の森・川・海にまつわる地形、生活、歴史についての説明がありました。そして、人々の生活が海に大きな影響を及ぼす中で、海に負荷をかけないために私たちに何ができるか、佐々木先生から丁寧な解説がありました。

水の流れをさかのぼって武蔵野台地の端から端へと移動した一日。イベント参加者にとっては海や自然を身近に感じるとともに、新しい視点で東京のまちを見つめる機会になったことと思います。ご協力頂いた佐々木先生、ならびに東京海洋大学関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

(ユース委員会 委員長 横井彩)



3年振りに「新年のつどい」を開催！

日時：1月31日(火)18時30分から
場所：港区内NEC芝倶楽部

新型コロナウイルス感染症により2020年から中止していた「新年のつどい」を実施しました。当日は、港ユネスコ協会の田部会長をはじめ副会長、常任理事のほかに、英会話教室の中澤萬佐雄講師、新入会員3名の方々と併せて総勢25名が参加し、初春に相応しい華やかな集いとなりました。

今回は会食に加え、初めての試みとしてフリードリンク制でアルコールも交えたこともあり、非常に和やかな雰囲気のもとに2時間にわたり楽しい時間を過ごすことが出来ました。

具体的な進行は小林副会長の開会の辞に続き、田部会長の挨拶、乾杯で開始しました。続いて、常設講座である英会話教室の中澤講師、事務局の新福事務局長、大塚事務職員が紹介されました。その後、歓談をはさみ、新入会員を含む参加者全員から自己紹介、近況報告、会員としてやってみたい抱負など積極的な発言がありました。当協会の運営や活動にとって有益なご意見もあったように感じました。

特に今回は初の外国人参加者がありました。一昨年の「日本語スピーチコンテスト」に出場したネパール人のパリヤル・ナビンさんで、流暢な日本語で自己紹介や今後の抱負などを話して下さいましたのが印象的でした。

開会から2時間、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、参加した皆さんが名残惜しい気持ちを持っておられたように感じました。今回の集いを記念して全員で集合写真を撮ったのち、石井常任理事の閉会の辞によりお開きとしました。



今回の「新年のつどい」が港ユネスコ協会にとって新年をスタートする力強い活力になることを期待したいと思います。皆様、今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

(常任理事 石井義明)

2022年度第3回国際理解講演会「ウクライナの文化」

講師 友野智子氏 倉林公夫氏

日時：2023年2月19日 14:00～16:00

会場：港区リーブラホール



田部 MUA 会長



佐藤日ユ会長

田部会長の挨拶に続き、この講演会の発案者でもある日本ユネスコ協会連盟会長佐藤美樹氏から日本ユネスコ協会連盟におけるウクライナ支援の概要にもふれたご挨拶がありました。会場には97人の方がご参加下さり、当日、総額77,000円の支援募金が集まりました。これは日本ユネスコ協会連盟を経てウクライナへ送られることになっています。

第1部 ウクライナの世界遺産と無形文化遺産

(友野講師)

1. タウリカ半島の古代都市とチョーラ

古代ギリシャ植民都市の遺跡。数百のチョーラ(長方形の小区域)がありました。

2. キーウ：聖ソフィア聖堂と関連修道院群

11世紀にヤロスラフ賢公によって作られました。ウクライナ建築史上もっとも名だたる教会です。13のドームからなり、モンゴルの侵攻により破壊されましたが、18世紀に改修されました。ところ狭しとイコン(聖人の絵)が飾られています。

3. ペチェルスカヤ大修道院

キエフ大公国の興亡を今に伝える遺構です。ナチス・ドイツに破壊されましたが、ウクライナ独立後、復元されました。

4. ブコビナ・ダルマチアの府主教の邸宅

ブコビナとはブナの国の事。ポーランドとの国境にブナ林があります。18世紀オーストリア・ハプスブルグの領地となり、チェコ人の建築家の設計により建てられました。色々な建築様式を集めた歴史主義建築です。現在は大学の一部になっています。



5. シュトルーヴェの測地弧

ノルウェーからウクライナのネクラシウカまで2820km、265地点でシュトルーヴェが三角測量をしました。地球の大きさや楕円形であることが分かりました。19世紀の科学技術の成果です。(三角測量の説明あり)

6. リヴィウ歴史地区

ポーランドの国境近くで、今回のロシア侵攻で爆撃を受けました。ルネッサンス、バロック、東欧風等様々な建築様式の建物が。ポーランド、スウェーデン、ロシア、オーストリア、ポーランド、ソビエト、ナチス・ドイツ等に支配されてきた歴史があります。

7. オデーサの歴史地区

今回世界遺産委員会を通さずに、緊急登録されました。「世界遺産等文化財には爆弾を落としてはいけない」というハーグ条約で町の文化財を守る目的です。オスマン帝国の領土からロシア領土になってから栄え、古い建物が残っています。ユダヤ人が多く、ポチョムキン号の反乱でも有名な場所です。

8. カルパティア山脈と他のヨーロッパ地域のブナ原生林
ウクライナとスロバキアのブナ林が自然遺産登録後、ヨーロッパの各国が登録申請し、18か国のブナ林が登録されています。ブナ林はかつてヨーロッパの40%を占めていました。ブナ林は森の発展（遷移）の最終形として重要です。
9. カルパティア地方のポーランドとウクライナ領にある木造教会群
石造りではなく、木造の素朴な教会群。中には所狭しとアイコンが飾ってあります。
10. 無形文化遺産
手では触れない遺産で現在667が登録されています。
ウクライナでは①オルネク、クリミアタタールの装飾品とそれに関する知識、②コシフ塗装(絵画)陶器の伝統、③コサックのドニプロペトロウシク地方の歌、④ペトリキフカ装飾絵画、④ボルシチ料理の文化(緊急保護が必要な無形文化遺産として登録されましたが、ユネスコはボルシチをウクライナ固有の食べ物として認めた訳ではありません。ただ、ボルシチはウクライナが起源で、昔のロシアではビートは収穫できませんでした。)

第2部 音楽の中のウクライナ(倉林講師)

1. 果てなき大地の上に♪

今、戦火に見舞われているウクライナに多くの人が涙しています。しかしウクライナはよく知らない国。でも、自分のささやかな音楽人生を振り返るといくつものウクライナがありました。それを話すことでより身近な国として感じてもらいたいと思います。

加藤登紀子さんは「果てなき大地の上に」というアルバムを昨年5月に出し、収益の全てをウクライナに寄付しています。彼女のお父さんは音楽プロデューサーとして活躍し、その後昭和46年にキエフ市と京都市が姉妹都市となったのを機に故郷の京都・祇園にレストラン「キエフ」を開店し、その店は51年続いています。このアルバムには「百万本のバラ」が収録されていますが、原曲はロシアの脅威にさらされているラトビアの抵抗の歌。また、「花はどこへ行った」も戦争に翻弄されるコサックを描いた「静かなるドン」に触発されてアメリカのピート・シーガーが作曲した最も有名な反戦歌。



2. キエフの鳥の歌♪

北海道合唱団がウクライナ公演をした際、歓迎会でバンドーラの弾き語りで歌われたウクライナ民謡を指揮者が訳詩したもの。

3. キャロル・オブ・ザ・ベル♪

現在、世界中で最も歌われるクリスマス・ソングの一つ。ウクライナ民謡を基に合唱曲が作られました。今年のXマスにNATOがラトビアで歌い世界へ発信しました。

4. ドニエプルの赤い罌粟(けし)

コサックとポーランド総督の娘との悲恋を描いた宝塚歌劇の作品がありました。宝塚歌劇は1975年にウクライナ公演を行っています。鳳蘭さんは台湾国籍のため入国することが出来ませんでした。

大正末期から昭和の初めにかけて宝塚でバレエを教えたオソフスカヤさんの夫のメッテル氏はウクライナ人の指揮者で、朝比奈隆や服部良一を育て、関西音楽界の父と呼ばれています。

5. バレエ大国ウクライナ

ウクライナ国立バレエ公演が1月に日本で開催。キーウでは週2回の公演を行っていますが、観客は200人に限定しています。爆撃があった場合にシェルターに収容できる人数です。芸術家が舞台に立つのは兵士が前線に立つのと同じだと言います。日本でも昭和21年に日本人だけの「白鳥の湖」が上演されました。終戦直後の状況の中で奇跡の公演と言われていますが、多くの人の心に光を与え音楽や芸術の力を示しました。

6. キエフの大門 ♪

キーウにあるキエフ大公国時代の中央門はモンゴルにより破壊され、ムソルグスキーが「展覧会の絵」を作曲した時にはありませんでした。「展覧会の絵」の最終章「キエフの大門」は親友の画家で建築家のハルトマンの追悼展覧会の絵に触発されて作曲したピアノ組曲です。これをラヴェルが見事な協奏曲にしています。

7. マゼッパ ♪

17世紀のウクライナの英雄マゼッパを描いたビクトル・ユーゴーの叙事詩「マゼッパ」に15歳のリストが感動しピアノ曲を作りました。恋多きリストの最後の恋人はキーウの女性です。

8. カルシュ・オーケストラ「ステファニア」 ♪

2022年ヨーロッパ最大の国別対抗音楽祭でウクライナのフォーク・ラップグループが優勝。彼らはキーウ近郊の爆撃を受けた場所の映像を音楽とともに世界に配信しました。

9. ウクライナ国歌 ♪

自由と独立のために闘う気持ちが溢れています。

(国際学術文化委員会 山田祐子)

(P.1 「日本語教師のつぶやき」から続く)

であるが、文法的説明が少ないので別途自作のプリントで補足しなければならない。教える時の言語は英語だ。

一人の生徒さんがタイミング良く、「なぜ(な)が付くのか？」と言う質問をしてくれた。「な形容詞 + 名詞」の場合には「な」が付く。例えば、「ベンさんは 元気(な) 人です」、「東京はにぎやか(な) 町です」など。しかし、「な形容詞だけ」の場合は「な」は付かない。例えば、「ベンさんは元気です」、「東京はにぎやかです」など。この質問をした生徒さんはアメリカ人であるが奥さんは日本人で、娘さんは日本の小学校に通学している。日常の決まりきった会話には慣れ親しんでいるものの、それだけでは娘さんと発展した会話ができないという理由で、私のクラスに入っている。彼にとっては、この初級クラスは簡単過ぎると思うのだが、文法的説明をすると、今までバラバラだった知識のパズルが組み合わさるようで、時折、感心した声をあげる。

もう一人の生徒さんも奥さんは日本人だが、米国の大学で日本語を学んだと言っている。今日、何かの弾みで時計の「分」の発音の仕方にふれた時、彼が「(5) の後に付く場合は『ふん』と発音すると習った」と言い出した。私が「いやいや、5 だけでなく 2, 7, 9 の後に付く場合にも(ふん)と発音し、他の数字の場合には(ぷん)と発音する」と説明したところ、「そんなこと大学では教えてくれなかった」とブツブツ。このブツブツさんは後で又聞きしたところによると「銃のプロ」だそう。

いつものごとく、誰かが質問して脱線すると会話が膨らむ。こんな時は無理して軌道修正せず、成り行きに任せると意外にうまくいく。昔はこんなやり方でいいのだろうかと思悩んだこともあったが、結局、習う側のペースに乗っかるのが一番良いという考えに達した。

以上、日本語レッスンの実例をいくつか紹介させて頂いた。昨今ネットでは「日本語教師になりませんか」という宣伝を目にすることが多くなった。外国語を習得するには大変なエネルギーを要する。聞いたこともない単語や表現を地道に覚えなければならない。教師がいくら分かり易く説明しようとも、本人のやる気が続かなければ習得できない。日本語教師の一番の役目は「やる気を持続させること」であると思っている。そのためには、レッスン内での脱線した楽しいおしゃべりはとても大事で欠かせないものである。そして、それらのおしゃべりから出てきた言葉や表現の方がなぜか覚えられる。不思議なものである。

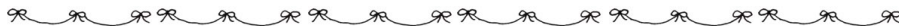
友金守さんを偲んで

当協会において永年、事務局長を務め、その後も常任理事、理事に就いて活躍された友金守さんが本年1月14日に逝去されました。いつも溢れんばかりの善意と熱意をもって港ユネスコ協会の活動に取り組んでこられた友金さんについては、当協会員の誰もがその温かいお人柄に感銘を受けてきたことと思います。今年のMUA新年会でも菊地相談役から哀悼のお言葉があり、皆でご遺徳を偲んで献杯しました（右の写真）。



私が1995年にMUAに入会したのは、会社の先輩でもあり、類似の大学で学んだよしみから友金さんが誘って下さったのがきっかけでした。「誰かが一步を踏み出さなければ、何も始まらない」をモットーに、何事にも前向きに取り組む方でした。生前、自分の名前は「友の金を守る」意味だと説明して覚えてもらおう、とおっしゃっていました。事務局長に就任するや、その広いご人脈を駆使して次々と法人会員などの数を増やし、また、自主事業として当協会が始めた英会話教室の運営にも手腕を発揮して当協会のカネ回りを大幅に改善するなど、有言実行の方でした。

私が担当してきた会報編集でも、写真好きの友金さんが当協会のイベントで毎回臨場感溢れる写真を撮って下さり助けられました。思い出は尽きません。どうぞ安らかにお休みください。 合掌
（監事・広報インターネット委員会委員長 棚橋征一）



既刊会報より追悼掲載

第20回 MUAサロン

日時 2016年11月8日（火） 18:00～20:00

場所 港区立生涯学習センター内 港ユネスコ協会事務局

話者 友金 守 理事

～国民学校入学(1943年)から、今日のMUA活動に至るまで～
故郷(丹波)の恩師に敬愛と感謝をこめて

今回の話者・友金守理事が、故郷の京都府の丹波の片田舎で生まれ育った時代の様子から、今日に至るまでの半生を、当時の写真、恩師と交わした手紙など数々の資料を示しながら、「人との縁の有難さ」を2時間にわたって熱っぽく語られた。

多くの恩師から支援を授かったおかげで、戦後の大学進学が難しい時代に、大阪外国語大学（現・大阪大学外国語学部）へ進学できたことに感謝を込めて話された。

社会人として就職したのは NEC。この時代に経験した一つの例として、アラブ出張時のエピソードを披露された。国、民族、宗教などが違っても、真心で接することで生まれた友情、信頼関係の大切さを強調された。また、趣味の絵画・仏像鑑賞、写真なども現物を見せながら、深い思い入れを述べられた。



会社を定年退職後、縁あって港ユネスコ協会の事務局を手伝うことになり、当時の三輪公忠会長の計らいで都合6年間、事務局長を務められた。在職時には、会費収入を増やすために、家族、親族、恩師、学友、会社関係などに粘り強く協力を呼びかけた。それまでの人間関係が役立って、大勢の賛助会員、法人会員を獲得できたことを、会計報告リストを見せながら当時の奮闘ぶりを証明された。いずれの体験談も私心なく真心で人と接すれば必ず助けてもらえるという信念に貫かれたお話だった。最後に、出席者全員で「故郷」を合唱し、終了した。

会員 塩瀬 正明

新入会員対象のファースト・ウエルカム・ミーティング開催

日時：2023年2月8日、15日

会場：港ユネスコ協会 事務局

会員開発委員会では、新しく入会された方やこれから入会を考えていらっしゃる方向けのウエルカム体制づくりを一層強めていくために「ファースト・ウエルカム・ミーティング」を開催することとしました。

内容は、新入会員が入会された早い時期に、ご本人に事務局へ足を運んでいただき、各委員会の有志数名と事務局でお迎えし、MUAの魅力を語るとともに、ご本人のMUAでの活動のご意向などをお聞きしたり質問を受付けるなどして、歓迎の表明をしたいと考えています。

早速、直近で入会された3名の方にお越しいただき、笠原さんが抹茶を立てていただくなどし、新入会員の皆様と既存会員で楽しく懇談ができました。写真は2回目の2月15日の模様です。



☆2月8日（水）15：30～16：30 新入会員：曹ゆん（そう ゆん）様、会員：奥村、笠原、新福
☆2月15日（水）13：00～14：30 新入会員：井上久美香様、長井祥欣様、会員：田部会長、今村、
笠原、宇都宮、新福（事務局長 新福彰二）

事務局便り

【ようこそ新入会員】

個人会員：中沢萬佐雄 様（当協会 TOEIC 対策講座講師）、家族会員：井上久美香 様（Website 申し込み、既会員のお嬢様）、外国籍会員：曹ゆん 様（Website 申し込み）、長井祥欣 様

【訃報】

会員で日本語スピーチコンテスト委員会副委員長、文化体験教室委員会、みなと区民まつり等委員会の委員をされていた渡辺貴美子様が昨年11月逝去されました。ご冥福をお祈りします。

【開催中・募集中の事業】

☆日本語講座	田川純子先生	1/14 スタート（土曜日・10：00～、11：45～）	10回
☆ビジネス英会話講座	金森尚人先生	2/6 スタート（木曜日・18：30～20：00）	6回
☆TOEIC対策講座	中沢萬佐雄先生	1/23 スタート（月曜日・19：00～20：30）	9回

【今後の事業予定】

☆3月11日（土）13：30～16：00「盆栽体験教室」会場：港区立生涯学習センター101号室

【事業時の売り上げ・寄付金等】

★1/18 シンポジウム「ユネスコ『世界の記憶』と増上寺の経典」7,000円

★2/19 第3回国際理解講演会「ウクライナの文化」77,000円

＊日本ユネスコ協会連盟を通じてウクライナ避難民のために役立てられます。

港ユネスコ協会事務局 火曜日～金曜日（祝日を除く）午前10時～午後5時

〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL：03(3434)2300 TEL・FAX：03(3434)2233

Eメール：m-info@minatounesco.jp ウェブサイト：<https://minato-unesco.jp>

